

資料配付の場所
つくば研究学園都市記者会平成 20 年 7 月 2 日
記者発表
国土技術政策総合研究所

情報交換マップ(災害情報用)を使ってみてください

～災害時の情報共有に関する研究成果を公開します～

国土技術政策総合研究所ではこのたび、「**情報交換マップ(災害情報用)**」を皆様にお試しいただけるよう、**インターネット上にサイトを公開いたしました。**

UPL は次のとおりです

<http://www.spat.nilim.go.jp/saigaiweb/>

「**情報交換マップ(災害情報用)**」には、以下の**機能**があります。

- 場所を地図で示しながら情報を共有する事が出来ます。
- 情報の種類や入力者等の条件で、入力された情報が整理されます。
- 入力された情報は時刻順に整理されます。
- 情報の変化を追跡する事が出来ます。

詳細は**添付のパンフレット**をご覧ください。

このたび公開した紹介サイトでは、「**情報交換マップ(災害情報用)**」の「**ユーザー向けの全ての機能**」をお使いいただけます。情報の入力に制限を設けておりませんので、サイト内に掲載されている利用規約をご確認のうえ、お使い頂けますようお願いいたします。

今後もサイト上で様々な情報提供の他、「プログラムの提供」等の**情報交換マップ(災害)**に関する様々な取り組みを行っていく予定です。

注) 情報交換マップは、国土地理院が提供する電子国土 web の機能を利用して作成しています。
デモサイトへのアクセスには以下の環境が必要となる事をご了承下さい。
○対応ブラウザ：Internet Explorer5.01 以上（ただし、Internet Explorer 5.5 は未対応）
○モニタ解像度は、1024×768 ピクセル以上を推奨します。
○電子国土プラグイン ver1.0 以上
○MSXML4.0(SP2)

この件に関するお問い合わせ先

国土技術政策総合研究所高度情報化研究センター

情報基盤研究室 主任研究官 小原弘志

TEL：029-864-2211（内線 3825） 直通 029-864-7483

「情報交換マップ（災害情報用）」の利用イメージ（参考）

主な機能（Webアプリケーション）

- 地図や掲示板の表示内容を任意時刻に変更することができます
- 情報種別毎に一覧表でデータを確認できます
- データを任意に絞り込んで表示させることができます
- 新着情報が即座に確認できます
- 地図と連動してデータを確認表示できます。
- データの管理は、地図上の点や線や面と連動させて行われます。
- 情報の種別（道路、河川・・・）の名称と登録項目は、管理者用ツールを使用して自由に変更できます。

地図凡例

種別	点レイヤ	線レイヤ	面レイヤ
道路		—	
河川		—	
砂防		—	
港湾		—	
上下水道		—	
空港		—	
鉄道		—	
その他1		—	
その他2		—	

主な機能（管理者用ツール）

- ・ユーザ管理
- ・市町村名称データ管理
- ・情報種別毎の設定
 - 種別名称
 - データ登録項目
 - アイコン変更 等

・電子国土は国土地理院が著作権を有するプログラムですが、無料で利用できます。
 ・電子国土を利用しているため、印刷等の機能は電子国土の現行の性能に依存します。

実際にお使い頂けるデモ環境を公開しています。
 下記の URL からアクセスしてください。

<http://www.spat.nilim.go.jp/saigaiweb/>

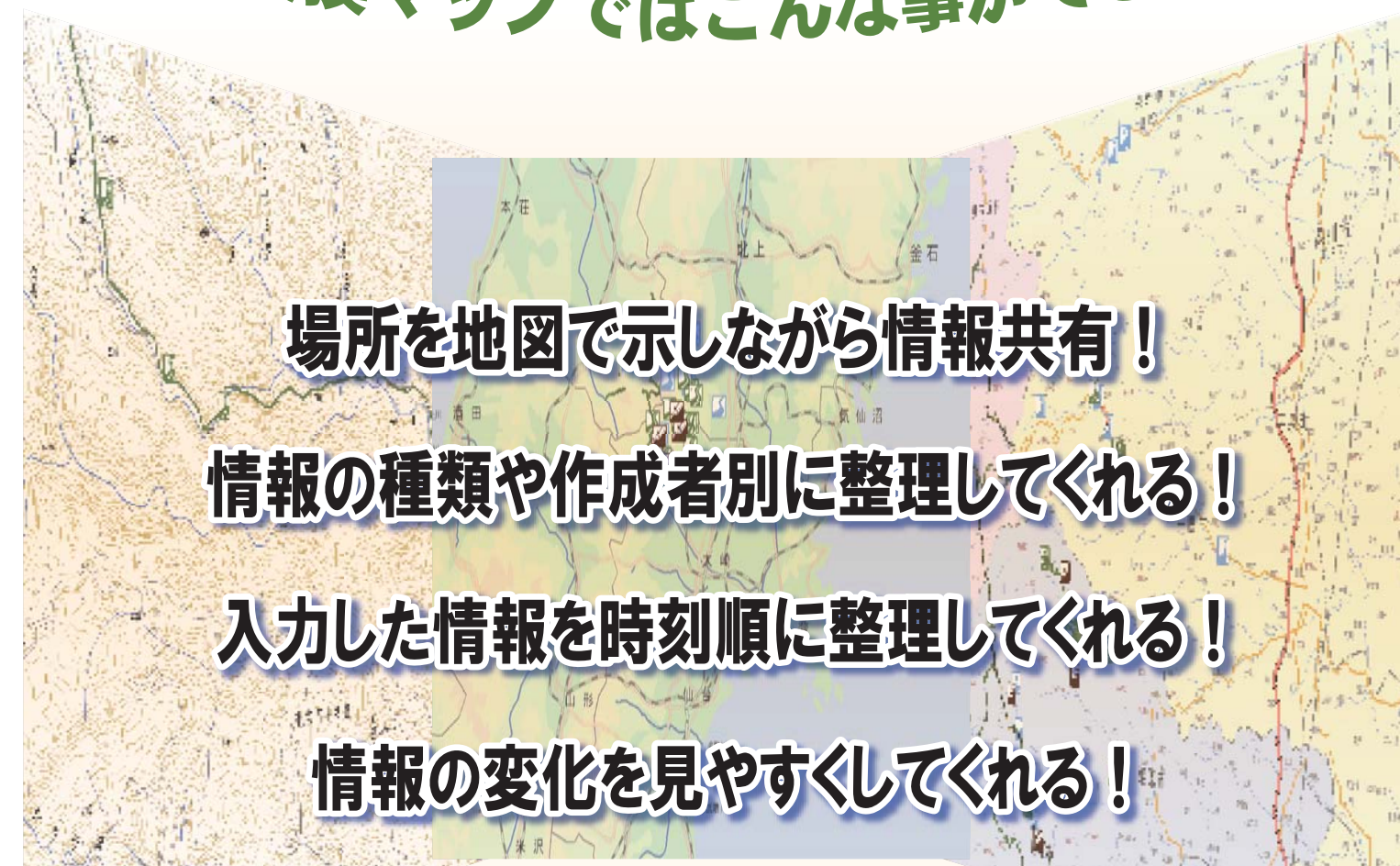
問合せ先・導入のご相談 国土交通省 国土技術政策総合研究所 情報基盤研究室
 〒305-0804 つくば市大字旭1番地 (TEL 029-864-4916)



情報交換マップ（災害情報用）

災害発生時の情報収集で、こまっていますか？

情報交換マップではこんな事ができます。



場所を地図で示しながら情報共有！

情報の種類や作成者別に整理してくれる！

入力した情報を時刻順に整理してくれる！

情報の変化を見やすくしてくれる！

例えば、こんな効果が期待できます。

災害対応時の
業務分担を
サポート！

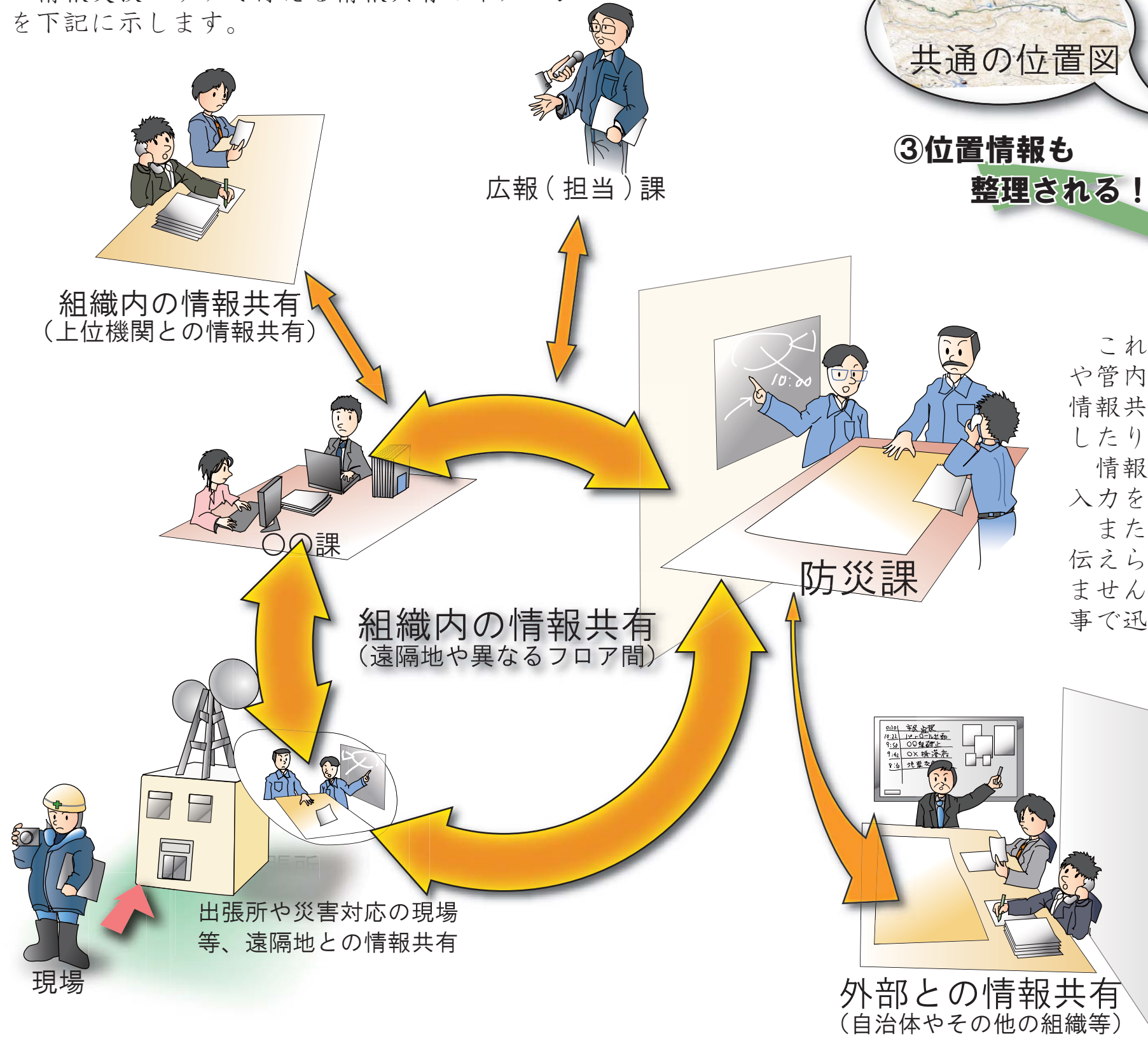
面的な
情報把握
をサポート！

情報の整理
から人員
を解放！

情報交換マップでどんな事が出来るのか？

災害時には、その規模や影響を把握しなければなりません。
的確な災害対応の初動体制を構築するには、より多くの情報を収集し、
関係者間でその情報を相互に交換し共有する必要があります。

情報交換マップで行える情報共有のイメージ
を下記に示します。



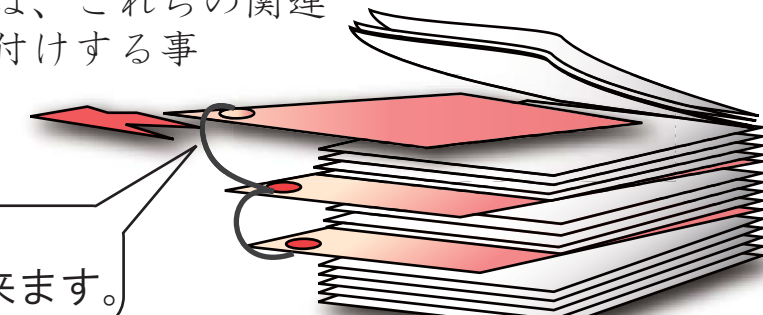
「情報交換マップ (災害情報用)」の機能イメージ

これまで、ホワイトボードや管内図等を用いて行っていた情報共有は、職員が情報の時系列を整理したり、管内図へのマーキングを行っていました。情報交換マップを用いた情報共有では、時刻を気にせずに入力を行えます。また、電話やファクシミリで送られた情報から管内図へ移す作業は、伝えられた情報の正確さ等に左右されるなど、決して効率的ではありませんでした。情報交換マップでは、これらの作業を発信者が直接行う事で迅速かつ正確な情報共有が可能となります。

複数の情報を様々な条件で関連づけ出来ます

災害情報相互には、様々な関連性が存在します。例としては、同じ情報に追加したり内容を変更したりする**報数管理**情報。また**情報の種別** (河川被害・道路被害・土砂災害……etc) の情報、**発信者の組織**等の情報が関連性を表すものとなります。情報交換マップでは、これらの関連性を元に情報をひも付けする事が可能です。

様々な条件により、
情報を関連づけ出来ます。



「情報交換マップ (災害情報用)」を使用した災害情報の収集例